
 記 事

◎第4回理事会

(昭.30.9.16) 出席者：菊池会長，種谷副会長，星莖，後藤，平井，河北，畠山の各理事，中川書記長，朝倉，椿箸，堀内の各主任書記。議事：1) 8月中行事その他報告，2) 秋のエクスカーションは五十里ダム及び日光有料道路を見学することとし，関東地建及び栃木県と打合せること，3) 1956年国際会議に関しては海外連絡委員会で審議すること，4) 国際会議出席者の報告講演会について，5) 土木工学ハンドブックの印税について，6) 会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 第4回会誌編集委員会(昭.30.9.23) 出席者：星莖，後藤正副委員長，成岡関西地方委員，長尾，三浦，林(泰)，針ヶ谷，大宮，岸(代土屋)，西畑，猪股竹下，関，白石の各委員，中川書記長，徳平編集幹事，岡本編集部員。協議事項：1) 会誌および論文集進捗状況報告，2) 投稿論文および新規受付論文審査委員の決定，3) 依頼原稿の件，4) 40巻11号登載論文を次のとおり予定した。

米沢 博：直交異方性板理論の連続桁橋構造の解析への適用に関する研究，村山朔郎外2名：表面振動による砂質土の締固めについて，春田忠雄：横島港におけるゴム防舷材について，岩井重久・神山桂一：組数の多い大腸菌群試験における最確数の統計的分布の推定法，小松定夫：箱桁の断面変形に関する研究。

5) 論文集 29号に次のものを追加し，発行を11月中旬とした。

田原保二・国広哲男：PC鋼線の付加的な影響を考慮した場合のプレストレスト門構ラーメンの研究，末石富太郎：特性曲線による出水解析について，後藤尚男：橋脚井筒の弾性動揺振動に及ぼすセン断効果，嶋 祐之：堤体下部への滲透流に対する変分法の応用，市原松平：裏込組石による岸壁背後に作用する土圧軽減について。

2. 第4回学会誌編集小委員会(昭.30.9.12) 出席者：後藤副委員長，菊池，尾藤(代)委員，徳平編集幹事，岡本編集部員。協議事項：40巻10号会誌編集につき最終決定を行つた(112ページ)。

3. 第4回学会誌抄録委員会(昭.30.9.12) 出席者：左合委員長，樋口，山口，久野，嶋，二階堂，稲田梅田，加藤，渡辺(代八木)の各委員，千秋幹事，徳平編集幹事，岡本編集部員。協議事項：1) 40巻10号登載用として6編を予定(割当8ページ)，2) 繰越19編，新規7編について協議，3) 投稿抄録について，その他。

4. 第1回海岸工学用語小委員会(昭.30.9.13) 出席者：鶴田，岸，肥後(代石綿)，堀川の各委員。議事：海岸工学用語選定方針について協議。

5. 国際理論及び応用力学会議打合せ(昭.30.9.13) 出席者：本間，岡本，最上，奥村の各委員，中川書記長。議事：昭和30年9月8日JSC応力研究連絡委員会の議題になつた経過を岡本委員から報告し，明年9月にベルギー国ブラッセルで開催されるInternational Union for Theoretical & Applied Mechanics(IUTAM)の総会及び9th International Congress for Applied Mechanicsにおくる代表候補者その他について打合せた。

6. コンクリート常置委員会(昭.30.9.19) 出席者：吉田委員長，国分，畑野，伊東，猪股，内山，川口，後藤，杉木，樋口，深谷，丸安，三浦，水野，森，山田の各委員，中川書記長，椿箸主任。議事：1) 吉田委員長から先般パリーで開催された第5回国際大ダム会議に出席して帰朝された国分，畑野両委員に対し歓迎のことばを述べ，引続いて畑野委員は大ダム会議全体について，また国分委員はコンクリート分科会およびA.S.T.M.の会議の模様について説明，食後炊灯をもつて見学したダム及び研究所設備の詳細について説明があつた。2) コンクリート示方書の改訂について意見の交換があつた。

7. 第6回土木会館建設委員会(昭.30.9.27) 出席者：金子委員長，佐藤，滝尾，立花，町田の各委員，五十嵐幹事，中川書記長，椿箸主任。議事：1) 金子委員長経過報告，2) 借用地の利用計画及び事務所建設について，3) 事務所設計案について協議，4) 建設省関東地建局長金子 柁氏を委員に委嘱すること，5) 事務所設計監督を金子委員に依頼すること，6) その他の土地利用計画は金子委員長からその道の大家に依頼すること。6) 完成目標を明年3月とすること。

8. 第7回橋梁構造委員会(昭.30.9.28) 出席者：友永，平井，田中，小西，田原，国分，山田，猪股の各委員，菊池幹事，中川書記長，椿箸主任。議事：1) 平井委員から先般開催した日本学術会議橋梁及び工学研究連絡委員会，土木，建築両学会連合の構造物の安全度に関する研究発表会の経過を報告，2) 明年6月ポルトガル国リスボンにおいて開催される5th Congress of the International Association for Bridge and Structural Engineeringにおくる代表者候補を日本学術会議に推薦する案について協議した。

9. 海外連絡委員会 (昭.30.9.29) 出席者: 田中委員長, 石原 (代小西), 千秋, 立花, 富樫 (代尾之内), 本間の各委員, 平井幹事。議事: 平井幹事から明年開催される下記国際会議について説明の後, 派遣代表候補者について協議した。

記

1. 5th Congress of the International Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE) (June 18~25 1956, Lisbon)
2. World Conference on Earthquake Engineering (June 4~9, 1956, Berkeley)
3. 59th Annual Meeting of American Society of Testing Material (June 1956)
4. General Meeting of the International Union Theoretical and Applied Mechanics (IUTAM) および 9th Congress for Applied Mechanics (Sept. 5~13 1956, Brussels)
5. Annual Assembly of International Institute of Welding (Aug. 1956, Madrid)
6. International Sub-committee on Concrete for Large Dams (June 1956, Wien)
7. International Association of Hydrology (Sept. 1956, Dijon)
8. Annual Meeting of American Concrete Institute (Feb. 1957)
9. 8th International Congress of Photogrammetry (July 1956, Stockholm)
10. Symposium on Winter Concreting-theory and practice (RILEM) (Feb. 13~18 1956, Copenhagen)

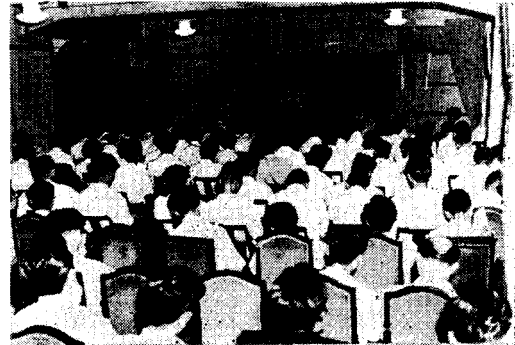
10. 第7回水理委員会 (昭.30.9.30) 出席者: 安芸委員長, 井口, 市浦, 岩井, 岩塚, 左合, 坂本, 嶋, 千秋, 高畑, 林, 本間, 米元, 渡辺の各委員, 米屋幹事長, 中川書記長, 椿著主任。議事: 1) 安芸委員長から去る8月オランダのデルフトで開催された General Meeting of the International Association for Hydraulic Research の報告 (世界各国から出席者 190 名, 大会の場所は Business session は欧州, Science session は他の国で開催することとし, 印刷物の主国語は英仏の2ヶ国語とする, 1957年には navigation congress が英国ロンドンであるから, その頃に開く予定, 明年9月に Irrigation and Drainage の会議が Berkeley であるから, その頃日本で regional meeting を開いたらどうか等の話があり, 安芸氏は1956年度の vice president に選出された。また report 用紙の大きさは American size によることに決定し, 1957年の議題としては a) scale effect in hydraulic research, b) cavitation in hydraulic energy, c)

hydraulics in outlet, inlet & canal と予定しているが意見があれば11月中に申出ること等, 2) 国際原子力平和利用会議の模様報告, 3) 明年9月 Dijon で開催される International Association of Hydrology の代表候補について協議した。

◎講演会および研究発表会

1. 建造物の安全度に関する研究発表会 (昭.30.9.6. 建築学会会議室において) 日本学術会議橋梁および構造工学研究連絡委員会, 土木, 建築両学会連合で開催, 定刻前から満員の盛況で予定のプログラム (第40巻8号参照) により有益な16講演を熱心に聴講し, 非常に盛大であつた。聴講者約150名, なお当日委員会を開催し, 明年は橋梁及び建造物の応力やヒズミの実測結果について研究発表を行うように予定した。

写真—1 建造物の安全度に関する研究発表会会場風景



2. 第5回応用力学連合講演会 (昭.30.9.7~9, 東大工学部第2号館において) 土木学会ほか6学協会連合で, 日本学術会議理論及び応用力学研究連絡委員会主催, 回を重ねるごとに盛大となり, 土木関係講演者31名, 延聴講者約600名のうち土木関係者約18%で, 予定のプログラム (第40巻7号参照) のとおり有意義に3日間の講演を終つた。9日夜は参加者及び委員相寄り懇親会を開き和やかに散会した。

写真—2 第2回応力連合講演会総合講演



3. 気象災害に関する総合講演会 (昭.30.9.30) 日

本気象学会、海洋学会、地震学会、土木学会、農業気象学会、建築学会の共催の下に中央气象台で開催、ちょうど22号台風が日本海にぬけつつある台風の移動状況を刻され実感をとまなう有意義な講演であつた。内容は 1) 自然災害における風害および水害の役割について(渡辺次雄)、2) 災害現象の operation research (高橋浩一郎)、3) 作物の風水害による被害と防止上の諸問題(坪井八十二)、4) 日本における風水害危険頻度(松下清美)、5) 建築物の風害と防止上の現行規則(亀井 勇)、6) 高汐、風浪、うねり(中野猿人)、7) 洪水流に関する二三の問題(本間 仁)であつた。

◎関係学協会の動き

1. 日本工学会 第7回大会展示関係打合せ(昭.30.9.10) 展示関係、総務関係担当学会及び日刊工業新聞社と打合せ、議事：展示会を日本工業大博覧会に発展させる案について協議、(9.13)展示関係学会と日刊工業新聞社と具体案について打合せ理事会にはかることとした。

総合打合せ(9.23) 当日理事会で結論をうるに至らなかつたために展示関係学会が案を練り直して再審議することとした。

2. 日本土質工学会講演会(昭.30.9.20、国鉄映写室において) 最上、三野両氏が帰朝せられたのでスライドによつて最上氏はバンコックから帰つてと題し、三野氏はアメリカの道路工事の二、三の問題について講演された。

3. 大ダム会議日本国内委員会帰朝報告会(昭.30.9.12) 第5回国際大ダム会議に出席された代表の畑野正、国分正胤、畠山 正、中条金兵衛、高野俊介の諸氏がそれぞれ会議の模様、視察状況等をスライドを併用して報告され、非常に有意義であつた。

◎その他

1. 特許庁総務部長から優秀発明特許出願補助について、昭和30年8月17日公布即日施行の「優秀発明特許出願補助規則」を会誌を通じて会員に周知方依頼があつた。

2. 菊池本会会長及び京大近藤教授、京都市建設局長 松倉新太郎氏は9月26日からイスタンブール及びローマで開催される10th International Road Congress と 2nd World Meeting of International Road Federation に日本代表として出席のため9月22日羽田空港を出発した。

支 部 だ よ り

1. 東北支部 講演会(昭.30.9.9) 聴講者180名、講師並びに演題は次のとおりで非常に盛会であつた。

- 1) 道路工事の最近の趨勢 土木研究所 竹下春見
- 2) 欧米視察から帰つて 東北電力KK 矢崎道美

3) 仙山線交流電化について 国鉄技師長付 石原技師

4) 真空コンクリート工法について 吉野理化学工業KK 高林利秋

役員会(昭.30.9.9) 出席者：宮本支部長以下17名、議題：巡回映画会並びに第2回見学会について審議した。幹事会(昭.30.9.12) 出席者：市嶋幹事長以下13名、議事：1) 第2回見学会は東北地建で工事中の秋田県仙北郡鏡畑ダムを10月8、9両日に実施すること、2) 映画会は佐久間ダム第2部を10月17日から約10日間借用できるので17日から6日間東北6県を巡回すること。

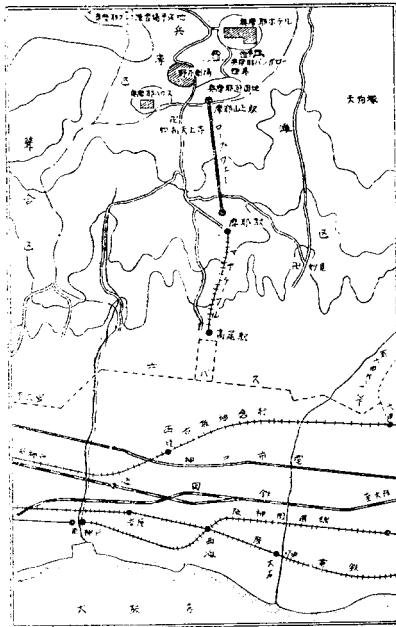
2. 中部支部 第5回幹事会(昭.30.8.2) 出席者：鈴木幹事長外12名、議事：1) 竹重貞蔵評議員常議員転出のため辞任、評議員は欠員とし常議員は鈴木幹事長を推薦すること、2) 小村 宏幹事転出のため後任は長久程一郎氏に決定、3) 今後の行事予定を(講演と映画の会(9月10日)、研究発表会(9月23日))とし支部年次大会について協議した。第6回幹事会(昭.30.9.6) 出席者：鈴木幹事長外16名、議事：1) 中部支部年次大会を10月22、23両日富山市において開催することに決定、2) 11月中旬に佐久間ダムの見学、12月に学生見学会を行うことに決定、第3回講演会(昭.30.9.10、名交会館) 講演：欧州のダムについて(中部電力KK計画課長藤本 得)、映画：佐久間ダム第2部(電源開発KK提供) 氷雪にいとむ(国鉄提供)、経過：秋晴れの好天気恵まれた土曜日の午後、講演と映画の評判に広い会場を埋めた会員約500名で最も盛大かつ有意義の講演会となつた。近代的な欧州のダムについて技術面、政策面等あらゆる面から解析した講演は多大な感銘を与え、次の佐久間ダム第2部は雄大な佐久間ダムの工事の全貌が天然色映画で美しく映し出され全員に感嘆の声を発せしめて有意義に午後5時半終了した。

研究発表会(昭.30.9.23) 研究発表題目は次のとおり。

1) 岐阜県の土木行政概要(熊本政晴)、2) 地上等真測量の簡易図化法(酒井清太郎)、3) 土の標準締固めとセン断抵抗(愛甲芳喜)、4) 長良川(犀川)の排水(小西則良)、5) 朝日ダム寒中コンクリート施工(比企野昭一)、6) 各種機械の締固めの効果(斎藤義治)、7) 電気回路相似法によるトラス応力の算定(山内利彦)、8) B.O.D.の測定に関する二、三の問題(富永正俊)、9) モーメント分配法による弾性支承上の連続梁の解法(井上 肇)、10) 活性汚泥とビタミンB₁₂(高田亮平、松田龍男、上久保正、宮崎俊男) 11) 旅足橋の設計施工(笹戸松二)、12) 電気抵抗線ヒズミ計による橋梁死荷重応力の実測一例(松浦 聖)、13) 日光川改良計画(飯島 博) 14) 鋼矢板岸壁の電気防食法の実験的設計とその成果(栗田龜造)、15) 名古屋市高速度鉄道堀川潜函工(浜 健介) 経過：午前9時30分、岐阜県土木部長の挨拶に始まり、貴重な研究が次々と発表され、会員約120名が熱心に聴き入つた。午後もしつぱり行われ、午後4時30分終了した。

3. 関西支部見学会(昭.30.9.6) 今回は摩耶鋼索鉄道KK 経営の摩耶ケーブル及び神戸市交通局経営の

図-1 摩耶ケーブル及びロープウェイ



摩耶ロープウェイを見学したところ、参加人員 60 名で非常に盛況であつた。

第 3 回役員会 (昭.30.9.10) 出席者：野田支部長，高西，福留，林，泉谷，鈴木，近藤元支部長，加藤，磯野，田中，網本，畑中，岡田，三好，久保田 (代)，田杉，森本各商議員，松下，松尾，太田各幹事，大塚 (代)。議事：1) 商議員の補選：近畿地建調査課長平野竹次郎，福井県河港課長前島健雄，奈良県道路課長梅村吉朗の 3 君が管外に転勤したのでその後任の板垣正男，宮崎虎太郎，大塚全一の 3 君に商議員を委嘱す

ることに決定，なおこれとともに現在幹事が 1 名欠員になつているので佐藤工業 KK，大阪支店営業課長森本得一君 (現商議員) に幹事を委嘱した。2) 本年度事業予定案 (9 月 6 日摩耶山見学会，10 月上旬ソ連中共視察談，10 月 24,25 日十津川利水工事猿谷ダム見学，11 月 6 日学術講演会，11 月 18 日プレストレストコンクリート講習会，1 月国際道路事情) の大要を説明し，実施に当つての細目は幹事に一任すること，3) 支部規定の改正について。

4. 中国四国支部 第 2 回幹事会 (昭.30.8.26) 出席者：坂田幹事長劔持，網干，中村，松平，津野田の各幹事。議事：1) 役員会準備打合せ，2, 支部会員名簿の作製，3) その他。第 1 回役員会 (昭.30.8.27) 出席者：宮田元支部長，大野支部長ほか役員 12 名。議事：1) 昭和 30 年度改選役員を次のとおり決定。

支部長：大野台助，常議員：宮田隆一郎，芥川暉雄，佐々木銃，高山養，評議員：森 四郎，石井 謙，有馬博雄，永瀬 肇，穂積健茂，大野唯樹，杉本培吉，吉田光太郎，佐々木銃，芥川暉雄，日笠育夫，丸島正夫，近藤正昭，庄司陸太郎，加賀美一二三，星 治雄，近藤正雄，山田勝則，内林達一，江藤 礼，岡野 一，齋藤武幸，金沢尚一，宮田隆一郎，滝山 養，幹事長：坂田静雄，幹事：劔持 力，網干寿夫，中村慶一，松平支太郎，津野田泰彦，編集委員：河内清彦

2) 支部規定の改正について，3) 秋の学術講演会開催について，4) 支部県部会の活動強化促進について 6) 支部基金設定について，6) その他 (第 1 回の県部会長は各県土木部長に委嘱すること)，第 3 回幹事会 (昭.30.9.15) 出席者：劔持幹事長，網干，中村，松平各幹事。議事：1) 支部県部会内規について，2) 今後の行事予定について，3) その他 (幹事長交替，坂田幹事長福岡県河川課長に転勤のため，後任に劔持港湾課長を委嘱)。

昭和 30 年 9 月分入退会報告 (昭.30.9.1~9.30)

- 1. 入 会 70 名 (特 3 級 2, 正 13, 准 26, 学生 29)
- 2. 退 会 163 名 (特 3 級 1, 正 30, 准 125 学生 7)
- 3. 転 格 35 名 (准より正 32, 学生より准へ 3)

会 員 現 在 数 (昭 30.9.30 現在)

| 名譽員 | 賛助員 | 特別員 | 1 級 | 2 級 | 3 級 | 正 員 | 准 員 | 学生員 | 合 計 | 減 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|--------|----|
| 20 | 16 | | 32 | 78 | 149 | 5 478 | 6 874 | 1 279 | 13 926 | 93 |

昭和 30 年 10 月 10 日 印刷
 昭和 30 年 10 月 15 日 発行

土木学会誌 第 40 卷 第 10 号 定価 100 円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中川 正 美吉堂
 印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大沼 一
 印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉 (20) 3945 番
 4078 番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京 16828 番

故 名 誉 員 工 学 博 士 君 島 八 郎 君 略 歴

君島八郎君は明治7年(1874)12月28日福島県会津若松市に生る。郷里の会津中学校、仙台の第二高等学校を経て、東京帝国大学工科大学土木工学科に進み、34年(1901)卒業、引つづき5年間大学院において研鑽を積む。35年同学講師を嘱託され、翌年助教教授に任ぜられたほか、農科大学、学習院等の講師をも兼ねたのち、欧米各国へ留学、44年(1911)4月帰朝と*



*時に九州帝国大学工科大学の教授に任ぜられて、福岡の地に移り、創立早々の同学諸設備の新営、拡充、ことに土木工学教室の教育、研究施設の整備、陣容の充実に力を尽した。

九大では終始土木工学第3講座を担当して教壇に立ち、その蘊蓄を傾けて河川工学、港湾工学を講じて、学生をして倦ましめず、その明敏なる頭脳、円満なる人格、慈父のごとき温容を慕う多くの学生

は、君の家庭にまで出入して団欒に加わり、多大の感化をうけている。

大正12年(1923)には九州帝国大学評議員に選ばれて大学運営の枢機に参画し、昭和4年(1929)には工学部長に推され、学部の振興発展に力を致して衆望に応える等、愛する九大に大いなる足跡を印したが、昭和10年惜まれて退官、同学名誉教授の称号を授けられた。九大に在ること23年11箇月、大学教育に献身すること前後実に32年余に及ぶ。

君の功績は、ただこれのみに止まらぬ。門司、小倉、若松、福岡、大牟田等各市の顧問として、あるいはその都市計画に、あるいはその上下水道、築港等の事業遂行に献策を誤らず、これら各都市の繁栄に貢献せるをはじめ、国および地方の各種委員会に迎えられて活動すること枚挙に暇あらず、港湾協会および水道協会の特別会員、土木学会西部支部の初代支部長、財団法人東邦産業研究所福岡試験所長として学界につくせる功業も銘記されるべきである。

君は、大学院在学時代に、すでに道路学一班の著書があるが、これにつづいて上梓せる君島測量学および上下巻の君島大測量学は、興隆期のわが国測量技術者必備の書とされて噴々たる名声をはせた。さらに、豊富なる経験と学理を盛つて成れる河海工学5編6巻の大著は、斯学の権威書に数えられて版を重ね、のち、改版により面目を一新し、長く土木工学界に裨益を与えた。これら幾多の偉業により、土木学会は昭和25年5月の通常総会において、満場一致の賛同を得て、君を名誉員に推挙した。

本年5月、福岡市において年次大会が開催されるや、全国より参集せる門弟は君を迎えて談笑の一夕を過し、その状あたかも慈父の膝下に戯れる赤子のごとく、まことに微笑ましき情景を展開した。思えばこれが師弟交歓の最後となり、初秋に入り臥床がちとなつて遂に起たず、昭和30年10月14日午前7時45分安らかに永眠、81年の光輝に満てる生涯を閉じた。報をうけて本学会は靈前に香華を供え、弔辞を捧呈したが、ここに重ねて哀悼の意を表する次第である。

お知らせ

◀海岸工学講演会講演集▶

記

1. 体裁：B5判 188 ページ，8ポイント一段組，図版多数
2. 頒価：350円（〒30円）申込と同時に払込のこと，受付順に順次発送します。
3. 内容：

| | | | |
|------------------------------------|---------------|--------------------|---|
| 1. 海岸の波浪について | 建設省土木研究所技官 | 岸 | 力 |
| 2. 碎波の機構 (II) | 京都大学教授 | 理博 速田 水 頌 一 郎 | 清 |
| 3. 海の波の解析概説 | 大阪大学教授 | 工博 中 徳 一 樹 | 直 |
| 4. 進行波による水底圧力の変動 | 運輸技術研究所技官 | 工博 浜光 田 易 直 | 樹 |
| | 同 | 工博 谷 易 直 | 樹 |
| 5. Estuary の水理について | 中央気象台技官 | 理博 市 栄 蒼 三 仁 | 樹 |
| 6. 突堤の及ぼす影響について | 東京大学教授 | 工博 野 間 眞 三 仁 | 樹 |
| | 同 | 工博 嶋 本 堀 川 清 | 樹 |
| 7. 海岸堤防の設計，特にその有効高について | 京都大学教授 | 工博 石 原 藤 次 郎 | 一 |
| | 京都大学助教授 | 工博 岩 垣 木 雄 一 太 | 徳 |
| | 京都大学大学院 | 工博 鈴 原 道 徳 | 一 |
| 8. 空防防波堤について (II) —伊王島における実験，その他— | 九州大学教授 | 工博 栗 原 田 居 吾 一 作 | 丸 |
| 9. トランシットによる波浪の記録観測法 | 北海道開発局土木試験所技官 | 工博 宇 渡 部 弥 精 丸 進 | 一 |
| 10. 防潮壁に作用する波について | 東京都立大学教授 | 工博 石 倉 岩 垣 木 雄 一 享 | 保 |
| 11. 港湾地帯の沖積層とその性質 | 運輸技術研究所技官 | 工博 井 井 莊 七 郎 | 一 |
| | 同 | 工博 久 宝 清 一 雄 | 裕 |
| 12. 海浜の平衡勾配と碎波による砂移動に関する実験 | 京都大学助教授 | 理博 福 溝 嶋 島 久 雄 裕 | 裕 |
| | 京都大学大学院 | 理博 溝 瀨 瀬 正 平 | 裕 |
| 13. 海岸防砂堤に関する研究 | 大阪市立大学教授 | 工博 井 井 莊 七 郎 | 一 |
| 14. 河口漂砂の移動 | 徳島大学教授 | 工博 永 久 宝 清 一 雄 | 裕 |
| 15. 河口閉塞とその防止策について—神戸川における河口処理の一例— | 建設省土木研究所技官 | 工博 佐 藤 清 一 雄 | 裕 |
| 16. 漂砂と沿岸流について | 北海道大学助教授 | 理博 真 嶋 島 久 雄 裕 | 裕 |
| 17. 漂砂とその測定について | 北海道大学助教授 | 理博 溝 瀨 瀬 正 平 | 裕 |
| 18. 放射性ガラス砂を用いた漂砂の現場実験について | 北海道開発局室蘭建設部長 | 理博 溝 瀨 瀬 正 平 | 裕 |
| 19. 新潟海岸の欠濱について | 運輸省第一港建局長 | 理博 山 田 正 平 | 裕 |

◀関西支部行事予告について▶

関西支部では下記のとおり第4回土木工事研究会を開催致しますから支部関係会員の多数参加を希望いたします。

記

1. 期 日：昭和30年12月9日（金）午後1時より
2. 会 場：大阪市北区北扇町38 市立工業研究所講堂（城東線 天満駅下車）
3. 題目および講師：
 1. プレパクトコンクリート工法 清水建設 KK 大阪支店 上 荷 敬 一
 2. スライディングフォーム工法 KK 大林組 中 川 貞 雄
 3. コンクリート養生剤使用法 呉羽化学工業 KK 真 弓 莞 爾（註：一部スライドを併用して説明いたします）

昭和30年度会員名簿予約について

本年度土木学会会員名簿は，当初の計画では学生員を除く全会員に無料頒布の予定でしたが，種々の事情によりまして，今回は正員以上の方々のみ無料頒布するの止むなきに至りました。

従つて，准員，学生員各位のうちで名簿を希望される方には，特価100円（〒35円）にて有料頒布いたしますから至急御予約下さい。

経費の関係上予約以外の部数はあまり作りません。なお刊行は12月中旬，A・5判6号一段横組で500ページ以上になる予定です。